



2025 年 6 月 1 日 発行
(通巻 505 号) 定価 100 円

現代座レポート No. 102

- ・ NPO 現代座総会報告 (1)
- ・ 2024 年度 N P O 現代座 活動報告 (2)
- ・ 東京都へ提出した NPO 活動計算書 (3)
- ・ 「星と波と風と」ビデオ上映会 (4~5)
- ・ 「誰でもできる朗読教室」の活動 長谷川葉月 (6)
- ・ でみ Cafe 寄席@現代座 林家きなこ (7)
- ・ 追悼・渋谷さん 会館日誌・会員入会・継続・寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 N P O 現代座 発行責任者：木村快

〒 184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987



青木文太郎 黒澤義之 八木澤賢 木村康恵 八木浩司

木の下敬志 矢川千尋 木下美智子 東志野香

長谷川葉月 (パソコン内は青森にいるト部美佳子) 木村快 今村純二 蔦谷栄一 今村倣子

N P O 現代座総会報告

特定非営利活動法人 N P O 現代座の第 24 回定期総会が、4 月 12 日 (土) 午前 10 時半から現代座 2 階会議室で行われ、2024 年度の活動報告と財政報告が確認されました。(報告は 2、3 ページに)

◆ 今年「統一劇場」の名前での発足から 60 年目に当たります。この集団は 1965 (昭和 40) 年に、当時最大の構成員を誇る劇団「新制作座」から無断解雇された 70 名の失業者が、取りあえずそれぞれ自立出来る道を探しながら活動を始めたものでした。そして二十年かけてやっと、「ふるさと・きやうばん」、「希望舞台」、「現代座」の三劇団が確立されました。この三つの劇団が旅立つ記念として、三劇団合同の「出航」という作品が創作されました。

◆ 「出航」公演
現代座の流れを引きつぐ N P O 現代座は、今年 2 月「出航」公演を行いました。「出航」は 1981 年から全国で 195 回の公演を重ねた芝居です。当時を知る人も少なくなり、無理を承知で公演を決めました。

2 月 1 日から 9 日まで 8 ステージ公演し、どの公演も満席。会場いっぱいのお客様の笑い声や涙に励まされながらの、充実した公演を創ることができました。この芝居は今の時代にこそ観てもらいたいと再演する事を決めました。

公演の時期は、来年 2026 年の 5 月の連休中に決まりました。更に稽古して、もつといい芝居に創り上げたいと思います。

◆ ビデオ上映会
会員の皆さんからは「昔やった芝居をもっと観たい。ビデオ上映会でもいいから出来ないか」という声がありました。そこで今年はいくつかの芝居のビデオ上映会をやることにしました。

まずは「星と波と風と」を上映します。これは 1988 年から 91 年にかけて公演した生演奏のミュージカルです。

ミクロナシアの島に旅行に行った若者たちが、思いがけず自分の国の戦争の歴史をはじめ知り、本当の国際化とは何かを考え始めるお話しです。

6 月 28 日 (土) 29 日 (日) 午後 2 時から、地下のホールで上映します。(詳しくは 4、5 ページに)

今年度も、色々な活動を通して、地域の皆さんとの繋がりを広げていきたいと思えます。

2024年度NPO現代座

財政報告と活動報告

◆財政報告

左の活動計算書は東京都に提出したものです。

2024年度も会員の皆さんからの会費と寄付で支えていただきました。会費は1,210,000円、ご寄付は678,000円いただきました。

創立60周年の「出航手ぬぐい」を1000円以上のご寄付をくださった方に贈呈したこともあって、公演会場での寄付は212,500円も集まり、寄付の中の多くを占めました。本当にありがとうございました。

①地域劇場づくり支援事業

これは現代座会館を地域の活動や、創造集団の稽古や公演に使っていただく貸し会場の事です。2024年度は地下ホールを使つての稽古が8団体、公演が6団体ありました。3階小ホール使用は稽古や練習が5団体、公演が5団体でした。公演は毎年やっている団体がほとんどですが、稽古は新しい団体も増えてきています。

その中でも、小金井のアーティスト「腹話術師いずみ」さんと「落語家の林家きなこ」さんによる「でみCafe寄席」は現代座も全面的に応援するかたちで一昨年から続いています。(7ページ参照)

地域との繋がりとして大切にしているのは地元の「緑町第2町会」です。役員会や総会だけで無く、「防災講座」も2階の会議室を使ってもらいました。また、

誰でも参加出来る「緑町ふれあいサロン」も町会の役員さんを中心に毎月開いています。

②制作上演事業

◆これは1面に書いた「出航」公演が大きな活動です。

◆それ以外には5月に小金井の公民館貫井南分館で「貫井南センターまつりプレイベント」として、語り芝居「武蔵野の歌が聞こえる」を公演しました。以前創っていたものを基本に、出演者4人とピアノリストで1時間15分のどこでも上演できる新しい語り芝居です。これは、これからも色々なところでやっていけるようにしたいと思っています。

◆木村快は自身の戦時中の体験と硫黄島で戦死した父の話「ある日本人家族の物語」という語りになりました。上演できるように準備中です。

③セミナー事業

◆10年目を迎える「誰でもできる朗読教室」は半年間の講座で最後は舞台で発表会をします。2024年は1月期が29人、9月期が26人の受講生で、水曜と木曜の昼夜4つの講座はほとんど定員いっぱい、活気にあふれていました。(6ページ参照)

◆はじめて行ったのは小金井の公民館貫井北分館の高齢者学級「はなみずき学級」の講師です。30人の高齢者学級の受講生に現代座ホールに来ていただいて、台本を持って舞台の上でセリフをしゃべるといふ体験をしていただきました。「楽しかった」と言っていたので、2025年度もやることになりました。

◆ハンセン病の語り

今年は「遠い空の下の故郷」ハンセン病療養所に生きての語り活動を再開します。まずは7月に東京学芸大学の環境教育の授業の中でできることになりました。

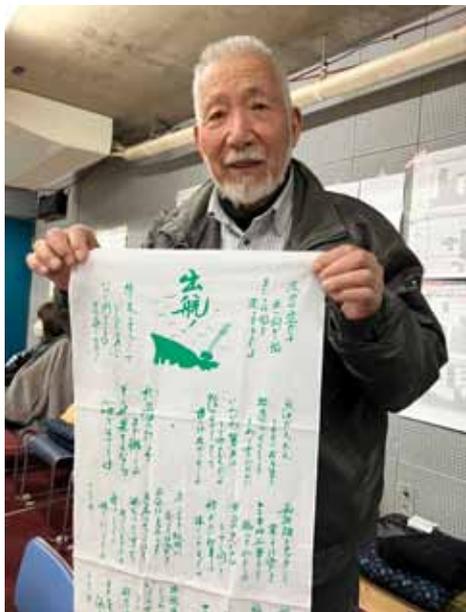
何人でも集まってくだされば、どこへでも出かけて行きます。

◆現代座ホールの整備

毎年、会館の修理や機材や備品に200万円ほどの予算をみているのですが、昨年度は雨漏りの修理が進まず、備品の買い換えも出来なかったため、ほとんど支出はありませんでした。2025年度には本格的に雨漏り修理や会館の整備をやりたいと思います。

◆「出航てぬぐい」

創立60周年の感謝と、これからも応援していただきたい気持ちをごめて作った「出航手ぬぐい」。今村純二さんの手書きで「出航」の主題歌「北の海へ」の歌詞とイラストが入っています。千円以上のご寄付で差し上げています。引き続きよろしくお願ひします。



2024年度 活動計算書

2024年3月1日から 2025年2月28日まで

特定非営利活動法人 NPO現代座

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		1,210,000
2 受取寄付金		678,000
3 受取助成金等		
公共団体補助金	0	
民間助成金	0	0
4 事業収益		
①地域劇場づくり支援事業収益	4,409,285	
②制作上演事業収益	3,652,000	
③セミナー事業収益	1,125,000	
④国際協力事業収益	0	
⑤まちづくり事業収益	0	
⑥子ども健全育成事業収益	0	
⑦会報発行事業収益	0	9,186,285
5 その他収益		
受取利息	645	
雑収益	138,663	139,308
経常収益 計		11,213,593
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	1,667,800	
(2) その他経費		
制作・準備費	0	
創造・上演費	2,437,969	
交通・通信費	778,413	
資料・印刷費	36,116	
消耗品費	198,615	
会報・HP経費	459,672	
その他経費 計	3,910,785	
事業費 計		5,578,585
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	376,200	
(2) その他経費		
通信運搬費	317,672	
消耗品費	148,482	
雑費	284,715	
光熱水道費	1,275,748	
租税公課	821,500	
減価償却	153,884	
その他経費 計	3,002,001	
管理費 計		3,378,201
経常費用 計		8,956,786
当期正味財産増減額		2,256,807
前期繰越正味財産額		34,828,731
次期繰越正味財産額		37,085,538

当期において、その他事業は実施していません。

「星と波と風と」ビデオ上映会

6月28日(土) 午後2時
29日(日) 午後2時

現代座ホール 参加費 1000円

お申し込み TEL 042-381-5165
FAX 042-381-6987

MAIL: gendaiza.ticket@gmail.com

星と波と風と 1988年～1991年 全国191公演



どうしてこんな綺麗なところで戦争があったの？

1980年代、バブル絶頂期にさしかかった金満ニッポン。若者たちもお金のかからない太平洋の小さな島々へは出かけられるようになった。「気軽に出かけるミクロネシアの島々」という旅行会社の宣伝に乗って大奮発。

ところが、途中で乗り換える船を間違えて、不思議な島にたどり着く。一見楽園と見える平和な島のジャングルで、彼らはまったく予想もしなかった事態に直面する。

その島はかつては日本の統治領であって、住民は三等国民と呼ばれていた。平原には墜落した戦闘機の残骸、戦争で死んだ多くの日本兵の遺品が放置されていた。

だが、ジャングルの奥には、今なお物質文明に抵抗し、自然な暮らしを守ろうとする人々の村があった。本当の国際化とは何かを語りかける、若者たちのミュージカル・コメディ。



デザイン 田島一夫 文字 進藤洋子

1988年 制作スタッフ

作 木村快
演出 清水義方
音楽 岡田京子
演奏 今村純二 吉野由美子
振付 愛田巡也
装置 出川三男(松竹)
衣装 松竹衣装 真壁悦子
照明 多田淳一
制作 渡辺義治
サポート 日本ヤップ友好協会

失業劇団員の集団だった統一劇場から1983年に二劇団が分かれて独立し、家族持ち劇団員ばかりが残った。やむなく新しく若者を呼び集め、一転して、若者劇団に変貌させる。出演者は毎年入れ替わり、30人以上の劇団員が育った記念的作品。

【制作意図・国際化時代の若者たちへ 木村快】

わたしはこの作品で、戦争を知らない現代の若者たちに、どのように日本の歴史と風土が繁栄しているかということを考えてみたいと思った。そしてできることなら、彼らが自分で体験し、自分の責任で国際的存在に育って欲しいと思った。

登場してくる若者たちは、自分たちをごく平均的でノーマルな人間だと思っている。精密なガラスの箱のような管理社会から脱出し、わずかな期間の海外旅行中ぐらいは、他人に干渉されずに本当の自分を取り戻したいと思う。しかしそういう時だからこそ、この人たちを育てた国の文化の特質が、外国人の前で遠慮会釈なく発揮される。

円高による苦境に耐えながら、海外に出向している建設労働者、四十数年前までは強制的に日本植民地の三等国民として扱われたミクロネシア人、こうした人々との接触を通して、日本の中では考えるはずもなかった、自分たち日本人の在り方を、ごく平凡なわが観光客たちは身をもって体験し、本当の意味での二十一世紀の日本人としての問題意識をもち始める。そんな劇場にしたい。

(一九八八年上演パンフレットから)

【ケニメデ大酋長を訪ねて】

ミクロネシア連邦とはグアム島から赤道にいたる六〇〇以上の島々を含む。この作品ではその南端のパラオ諸島の中心の島、ヤップ島を背景にしている。

わたしは一九八八年三月から五月にかけて、ヤップ島の奥地を歩き回った。

ヤップ島ではアメリカや日本の企業が開発を目指して道路を建設していた。ところが奥地一帯では反対運動が起こっていて、外国人の立ち入りは禁止されていた。道路建設の日本人労働者は「奥地には絶対入らないで！何をされるか判らない」と注意してくれた。反対運動の中心人物は奥地に住むケニメデ大酋長だという。そこで日本ヤップ友好協会を訊ねて、取材の意図を話すと、酋長は立派な人だからと、ケニメデ大酋長宛ての紹介状を書いてくれた。

平原を通り抜けて奥地へ向かうと、日本陸軍の戦闘機の残骸が放置されていた。奥地の集落に入るには川を渡らなくてはならないが、橋は丸太が二本渡してあるだけで、車両の侵入を防いでいた。

しばらく歩くと木陰から、「ようこそおいでください」と日本語で声をかけられた。それがケニメデ大酋長だった、日本語は日本の統治時代に学校で習ったという。

「この静かな村がボクは好きです。電気も欲しいけれど、どんどん便利になり、何もすることがなくなってしまう。だからヤップの若者は木にも登れません。アメリカのやり方は良くないです。そこに住んでる者の習慣を捨てさせ、自分勝手な教育を押しつけてくる。」
「ボクもいつまでも頑張れるとは思いません。若い者の時代になれば道路も通るでしょう。だけどボクの生きてる時代だけは通したくない」と笑っていた。

ケニメデさんは大変大らかな人だった。

【ケニメデ大酋長来日】

『星と波と風と』の舞台は三年間、四次にわたって編成され、全国で百九十一公演を実現、十一万人の観客に育てられた。

そして一九九一年七月十八日、十九日、東京の朝日生命ホールで打ち上げとなる。日本ヤップ友好協会の釈清人さん、長田さんのご尽力で、ケニメデ大酋長をお招きし、千秋楽の舞台で挨拶していただくことが出来た。

「日本は車が一杯走り、高い建物が並んでいます。こんな所で皆さんはよくやっておられます。大変お疲れでしょう。疲れたらぜひ私たちの島にいらっしやい。周りは海と森だけだけど、森はただの深い森ではなく、私たちと一緒にくらしている森だから、心が安まる。ぜひいらっしやい」



1991年7月18,19日 朝日生命ホールの舞台上に正装で立ち、観客に向かって日本語で挨拶するケニメデ大酋長。

「誰でもできる朗読教室」の活動

長谷川葉月

3月12日(水)と13日(木)の2日間にわたり「誰でもできる朗読教室」の2024年9月期生発表会があり、24名が朗読を発表しました。

いつもは半年間の学びの最後に発表をするのですが、今回は年をまたいで6カ月学び、7カ月目に発表の日



↑3/12(水) 出演「2024年9月期 水曜教室」

(後列左より) 尾花はるみ、大久保節子、環笑子、野崎幸代、本橋一夫、石川秀樹
(前列左より) 江花幸子、井上尚子、長谷川葉月(講師)、田中佑実、高嶋悦代、佐藤忍



↑3/13(木) 出演「2024年9月期 木曜教室」

(後列左より) 今井治江、向井奈緒子、小野寺優子、羽鳥宏子、原悠子、五味孝宏、本田典子
(前列左より) 浜崎小枝子、古明地節子、長谷川葉月(講師)、早乙女裕子、野本ゆうこ、勝木ルミ子

を迎えたことで、受講生のみなさんはいつもより半月長く練習を積んだこととなります。そのせいか、いつも以上にレベルの高い発表会だったと感じました。全員が堂々としていて眩しいくらいでした。
ご来場のお客様からは、「朗読が上手いとか下手とかは関係なく、自分が本当に読みたい作品を選んで、作品の朗読に情熱を注げば、確実に観客のハートに何かが突き刺さって来るものだね」という嬉しいコメントも頂戴しました。

その感想が示すとおり、時間を惜しまず繰り返し練習し、悩みながらも自分なりに読みに工夫を重ねて発表会に臨んできたのでしよう。聞けば、みなさん家では、家族が居ない場所でこっそり練習したり、まとまった練習時間がとれなくて、細切れの隙間時間に声を出したり、声を出せないときは何回も黙読したりしていたそうです。

リハーサルと本番とはだいぶ違って、声のボリュームが小さかった人が客席最後列まで声が届くようになっていたり、読みに説得力が増してきていたり、私からの難しいリクエスト作品にチャレンジして見事期待に応えてくれた人もいました。

そのほか、多彩な声で演じ、会場の笑いを誘う人もいたり、絵を見せながらの朗読や動きをプラスしての朗読もあり、バラエティに富んだ発表会となりました。

* * *

さて、朗読教室を開講したのは2015年10月でしたので、まもなく10年になります。現在、17期目の教室が始まっています。なんと、今期は夜クラスの受講者が増えました。仕事をしながらもなんとか時間を調整して通ってくれている人もいます。また、男性の方も増えてきました。世の中に楽しいことや習い事が数多くある中で朗読を選んでくださったということは、大変嬉しいことです。「朗読は心と体にいいこといっぱい。脳の活性化や誤嚥性肺炎の予防にも役立つ」と薦める本もあるように、今は、健康のための朗読に注目が集まりつつあります。それだけでなく、「朗読は人に感動を与えることができます」おまけ付きです。

みなさんが、より一層朗読を楽しめるよう、これからもお手伝いしていきたいと思えます。

「でみCafe 寄席@現代座」

林家きなこ



2025年5月11日(日)

3階小ホールにて、「いずみとき
なこのでみCafe 寄席@現代座」
を開催いたしました。

腹話術師いずみさんと、落語
家 林家きなこが出演する「でみ
Cafe 寄席」は、武蔵小金井駅

南口にあった「でみCafe」さんの店舗で始まりまし
た。実店舗をクローズされた後も「でみCafe」寄席を続け
ていこう！というごこと、現代座さんに場所をお借
りして開催させて頂いております。

現代座さんでの開催は、今回で3回目。現代座さん
の皆様が、何から何までもとても親切に力強いサポート
をして下さって、ひとつのチームのように「でみ
Cafe 寄席」を一緒に作り上げてくださることに感謝
の思いでいっぱいです。おかげ様で、「昼の部」「夕の部」
とも満席御礼にて開催させて頂きました。

今回も、腹話術師いずみさん&けんちゃん楽しい
前説に続き、でみCafe 店主でみさんの開演挨拶から
スタート。腹話術師いずみさん2席、林家きなこの落
語2席、お仲入り(休憩)には、でみCafeの特製「き
なこのおからドーナツ」とお飲み物でおやつタイム。
最後に、でみさん&けんちゃんのおまけ漫才をお届け
しました。

「ご来場くださった皆様から、「楽しかった!」「いっ
ぱい笑った!」「心が晴れ晴れとした」「心が洗われま

した」「楽しいプログラムをありがとう」「おからドーナ
ツがとても美味しかった」「現代座さん素敵!」「現代座
さんの舞台も観にきたい!」などのご感想を頂き、とて
も嬉しかったです。

私たち3人も現代座さんへの感謝とリスペクトがあ
ふれかえっております、それぞれの挨拶や、演目前の
トーク部分で、現代座さんの公演「出航」がいかに素晴
らしかったかという感動や感謝など、それぞれの想いを
お話ししました。終演後も現代座さんの事を話し始めた
ら止まらなくなってしまう、最後に一本締めで解散した
くらいです。初めて現代座さんにご来場されるお客様に
も、現代座さんの舞台や活動にも関心を持つきっかけに
なれたら、とても嬉しく思います。

ところで、私は、学生時代から演劇をやっております、
仲間と一緒に劇団を立ち上げ、小劇場演劇を10年ほど
続けていました。合言葉は「いつか、ふるさとキャラバ
ンさんのようになるぞー!」でした。その後私は、キャ
スター・レポーター・ナレーター・司会など「話して伝
えること」を仕事にしてきて、ある日、「今までやって
いた活動のずっと先にあるゴールは落語だ!」と思い、
師匠林家しん平に入門。2020年5月に「しん平門下・
二つ目」という「仕事として落語をやってよし」という
身分を頂きました。

…が、当時はコロナ禍まったただ中。他の仕事も含めほ
んどゼロという状態に。そんな時に出会ったのが、で
みCafeの店主でみさんと腹話術師いずみさんです。人が
集まることは悪いという空気に満ちていた時期に、どうし
たら私達の表現をお客様に届けられるか。どうしたら安
心してお客様に楽しんで頂けるか。3人で考え、3人で
手を取り合って、お客様やお力添えくださる方々に支え

て頂き、ここまで一歩一歩進んでくることができました。
自分がいちばん初めに夢見ていた「ふるさとキャラバ
ン」さんの母体である「現代座」さん。こうして現代座
さんのもとで「でみCafe 寄席」を開催させて頂けるこ
とを、奇跡のように有難く思います。でみさんの作って
くれる、まあるいドーナツのようなご縁を感じておりま
す。

いつも力強くあたたかく支えてくださる現代座さんの
皆様、ありがとうございます!

ご来場くださる皆様、ありがとうございます!

これからも、楽しく、仲良く、ほっこりなお時間をお
届けできるよう、でみCafe 寄席一同、皆様のお力を頂
いて、がんばってまいります!(落語家 林家きなこ 拝)



林家きなこさん・でみさん・腹話術師いずみさん



追悼

渋谷博史さん

全く思いがけないことでした。現代座スタッフの渋谷博史さんが、3月22日に水の事故で突然亡くなられました。73歳でした。今年2月の「出航」の公演でも「来年も再演したいね」と話している最中の出来事でした。

渋谷さんは1996年の「絆をつくる町」ではじめて現代座の照明を担当してくれたメンバーです。それから「虹の立つ海」「約束の水」「友の呼ぶ声」と、ずっと旅公演の照明スタッフとして、時には舞台監督として現代座の公演を支えてくれました。

2005年に現代座会館の3階の会議室とスタジオを改装して小ホールを手作りした時は、本格的な照明器具が仕込めない低い天井のため、色々工夫して、ホームセンターで手に入る様々な器具も使って、小さいながらも本格的な小ホールができあがりました。おかげで3階小ホールでは「ユーモレスク」を皮切りに「小さなカフェで」「わすれものはありませんか」等のアットホームな芝居を創ることができました。

渋谷さんはどんな時にも、決して「難しいな」とは言わない人でした。いつも前向きに「やりましょう。大丈夫ですよ」とにっこり笑って、あらゆる工夫をしてくださいました。本当にありがとうございました。

心から「冥福をお祈りします」。

NPO現代座 社員一同

現代座会館 3月～5月 活動日誌

3月6日 「木村快との雑談会」

16日 「現代座レポート101号」 発送作業
現代座会議

4月5日 「出航サポーターズ」会議

12日 NPO現代座総会

16日 「木村快との雑談会」

22日 北海道八雲より赤井氏ら来訪

5月18日 現代座会議

21日 「木村快との雑談会」

第3木曜日「緑町ふれあいサロン」

【現代座ホール】

3月5～9日 「hagakure」公演

10～16日 「斧頭会」稽古

20～23日 「青春の庭のうさぎたち」公演

24～4月6日 「劇団アルファ」稽古

4月7日～16日 「キーチエーン」稽古

17～22日 「パン・プランニング」稽古

28～29日 「劇団仲間」稽古

5月中の土日 「ハトノス」稽古

20～23日 「劇団影法師」稽古

【三階小ホール】

3月24日、4月7日、5月5日

小金井女声合唱団

3月15日 津田リトルコンサート

5月11日 いずみときなこのでみCafe 寄席

隔水曜・木曜日 朗読教室

毎火曜・木曜日 コカ教室

【二階サロン】

4月19日 緑町第2町会役員会

5月10日 緑町第2町会総会

毎水曜日 熟年会

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費（現代座レポート購読料を含む）

一般会員 3,000円
協賛会員 10,000円（1口以上）
郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座